アプリケーションノート

RAMParity

Arm および Keil は、Arm Limited（またはその子会社）の米国およびその他の国における登録商標です。

この資料に記載されている社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。

© 2025
Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation

目次

目次 2
1. はじめに 3
2. 用語 3
3. 関連するドキュメント 3
4. 対象サンプルプログラム 4
5. 構成図 4
6. サンプルプログラム：RAMParity 5
6.1. 動作・操作概要 5
6.2. 使用する機能 5
6.3. 使用する割り込み 5
6.4. コンフィグレーション 5
6.5. ターミナルソフト出力例 6
6.5.1. 正常時 6
6.5.2. エラー発生時 6
7. アクティビティ図 7
7.1. main 7
7.2. 割り込み 10
8. 改訂履歴 11
製品取り扱い上のお願い 12

© 2025
Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation

1. はじめに

本書は、RAM パリティー(RAMP)を用いるサンプルソフト RAMParity について記載しています。製品を開発する際、動作確認用または、プログラム開発の参考としてご利用願います。

2. 用語

用語／略語	定義
CG	Clock Control and Operation Mode
RAMP	RAM Parity
UART	Universal Asynchronous Receiver Transmitter

3. 関連するドキュメント

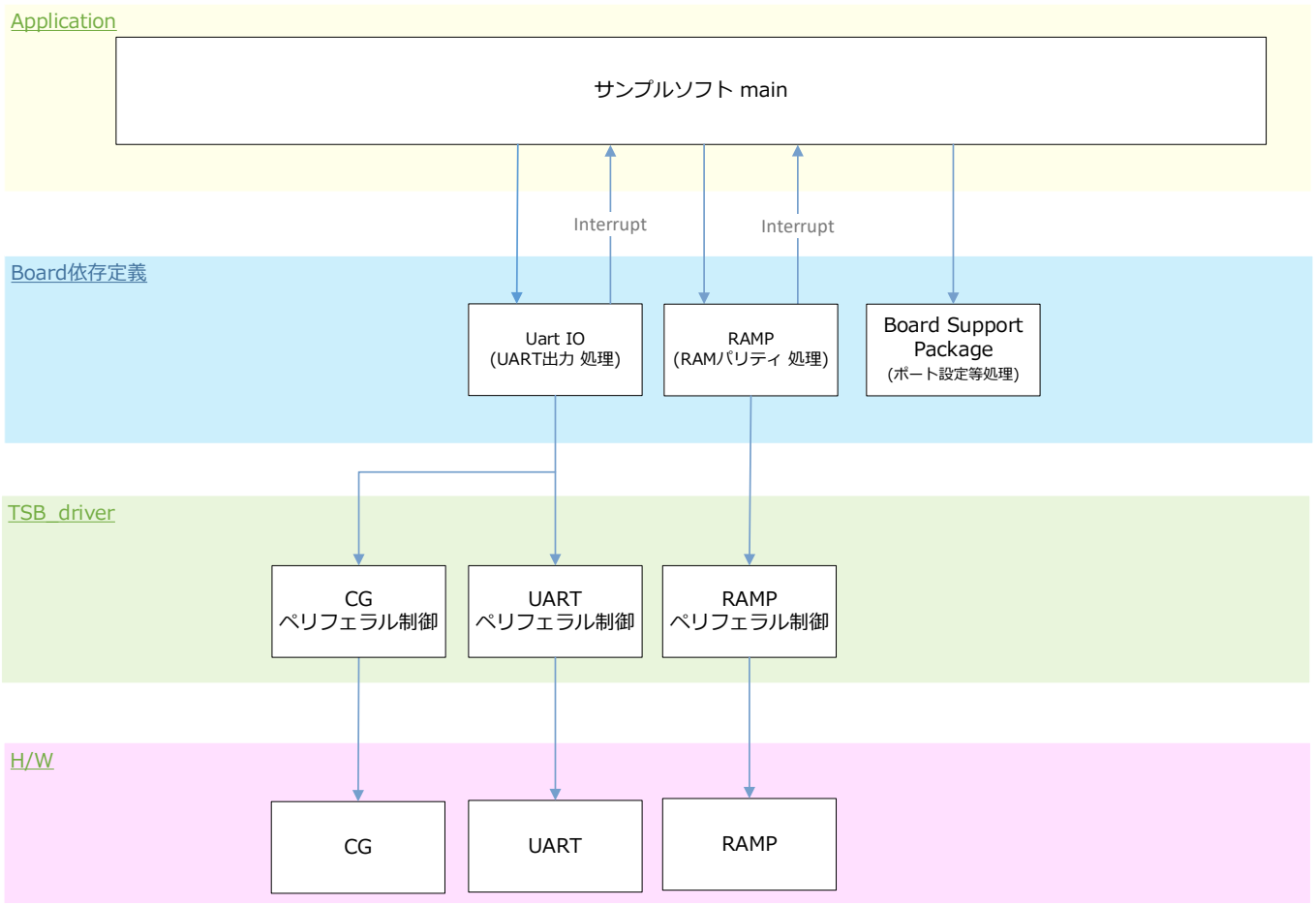
ドキュメント	備考
データシート	利用する MCU のデータシートを参照してください
リファレンスマニュアル	利用する各 IP のリファレンスマニュアルを参照してください
アプリケーションノート MCU 利用説明書	利用する MCU 利用説明書を参照してください

© 2025
Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation

4. 対象サンプルプログラム

サンプルプログラム	概要
RAMParity	RAMParity 機能のサンプルプログラム

5. 構成図



6. サンプルプログラム：RAMParity

ターミナルソフトから入力される文字列を、ライトコマンドを使って RAM へパリティーを付加して保存し、リードコマンドで RAM へ保存したデータを、パリティーチェックを行いターミナルソフトへ表示するサンプルソフトです。

6.1. 動作・操作概要

Command が入力された場合、入力された Command に従った処理を行います。
write コマンドを使って RAM へパリティーを付加して保存します。
read コマンドで RAM へ保存したデータのパリティーチェックを行い、ターミナルソフト上に表示します。

6.2. 使用する機能

使用する機能は下記のとおりです。
BSP Channel の Port 割り当ては、MCU 利用説明書を参照願います。

IP	チャネル	目的
UART	BSP_UART_1	ターミナルソフト通信用

6.3. 使用する割り込み

割り込み	制御概要
(注 1)	RAMP RAM パリティー割り込み
(注 2)	UART 受信割り込み
(注 3)	UART 送信割り込み
(注 4)	UART エラー割り込み

注 1： SBK-M471 と AdBun-M3HQA の場合、 ” INTPARI0”
注 2： SBK-M471 の場合、 ” INTSC0RX”
AdBun-M3HQA の場合、 ” INTUART0RX”
注 3： SBK-M471 の場合、 ” INTSC0TX”
AdBun-M3HQA の場合、 ” INTUART0TX”
注 4： SBK-M471 の場合、 ” INTSC0ERR”
AdBun-M3HQA の場合、 ” INTUART0ERR”

6.4. コンフィグレーション

コンフィグレーション設定

コンフィグレーション	ソフト定義名	設定値 (デフォルト)	説明
Write DATA MAX.	BSP_WRITE_DATA_MAX	10	書き込み可能文字数 (単位: 文字)
RAM TOP ADDRESS	bsp_ram1	0x20001000	アドレス変更時は、RAM Area0、1 内に配置します

6.5. ターミナルソフト出力例

6.5.1. 正常時

```
command > write 0
write data > 0
command > read
read data > 0
```

6.5.2. エラー発生時

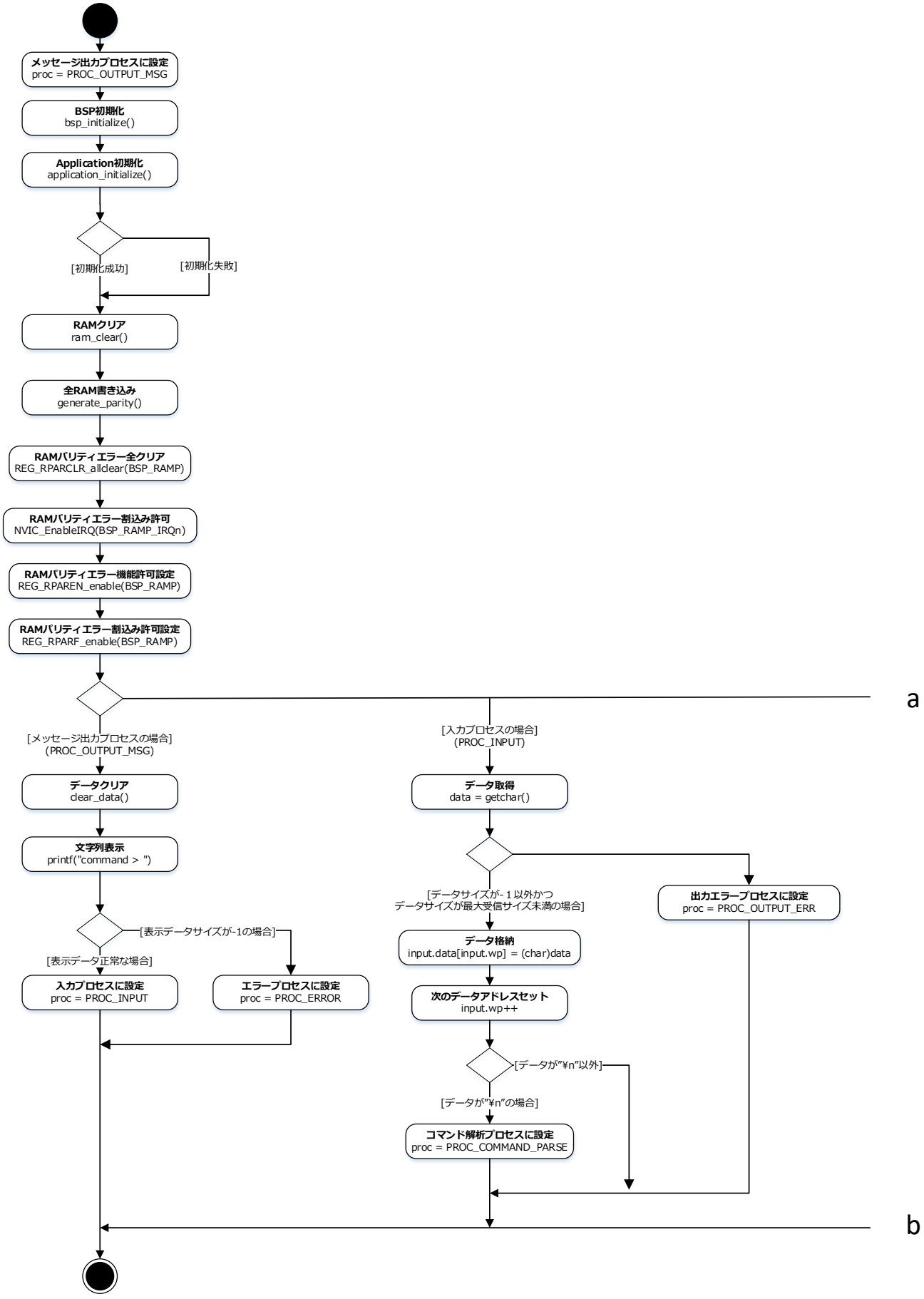
```
command > A
  Command Error !!

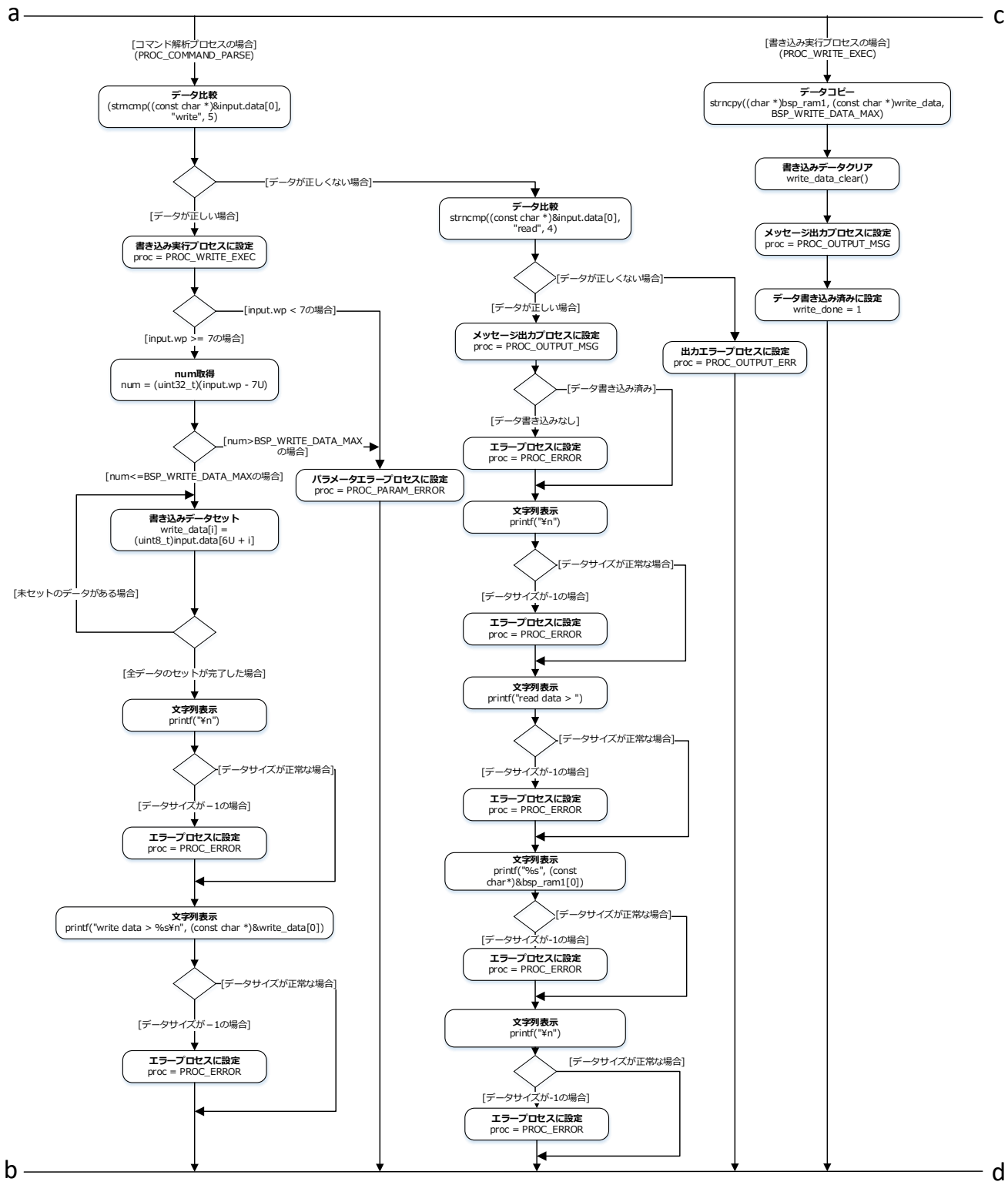
command > write 0123456789
write data > 012345679

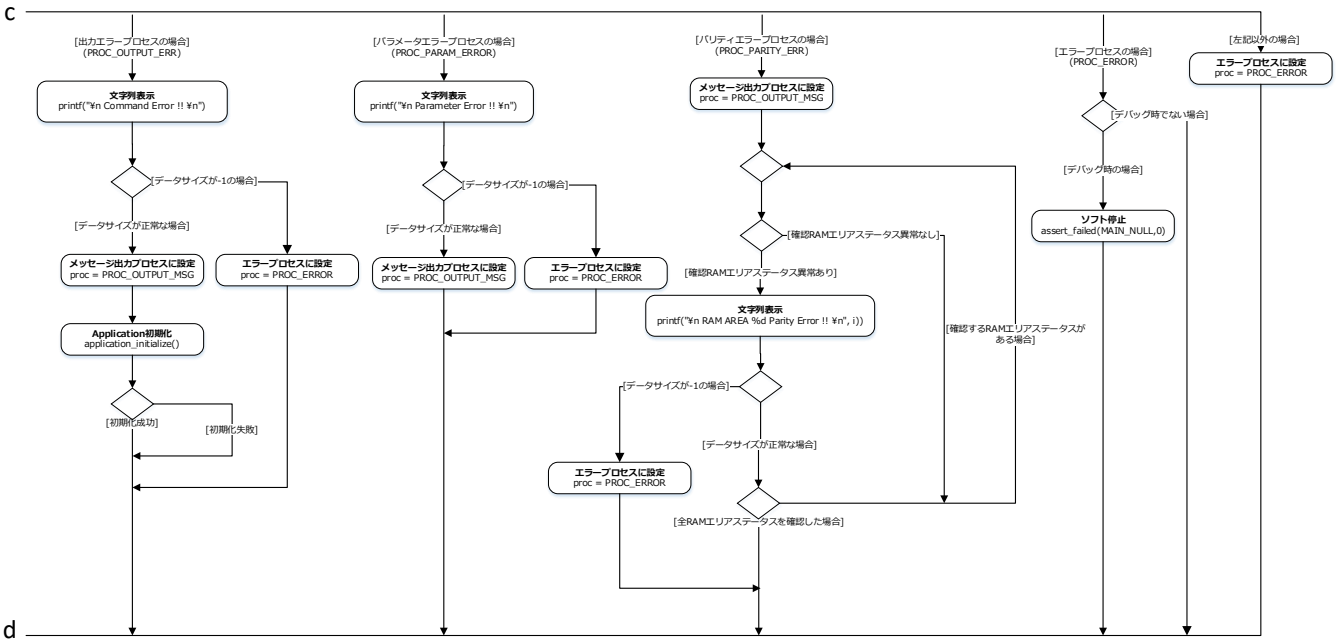
command > write 0123456789A
  Parameter Error !!
```

7. アクティビティ図

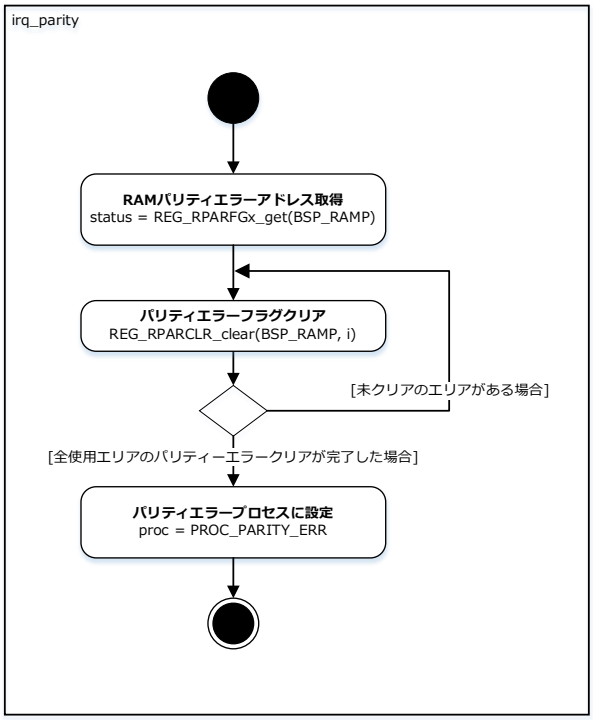
7.1. main

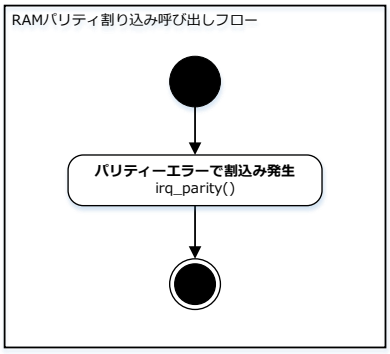


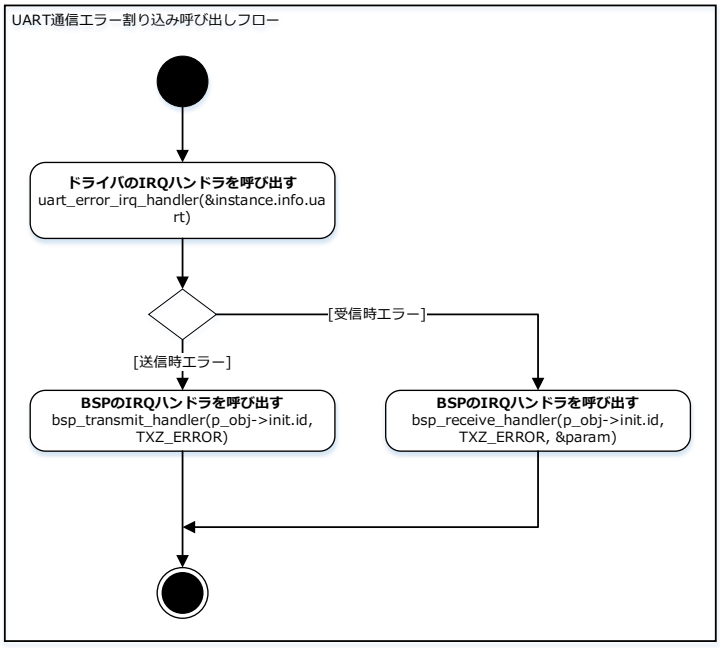

a
c
[コマンド解析プロセスの場合]
(PROC_COMMAND_PARSE)
データ比較
(strncmp((const char *)&input.data[0], "write", 5)
[データが正しくない場合]
[データが正しい場合]
書き込み実行プロセスに設定
proc = PROC_WRITE_EXEC
[input.wp < 7の場合]
[input.wp >= 7の場合]
num取得
num = (uint32_t)(input.wp - 7U)
[num>BSP_WRITE_DATA_MAX の場合]
[num<=BSP_WRITE_DATA_MAXの場合]
パラメータエラープロセスに設定
proc = PROC_PARAM_ERROR
書き込みデータセット
write_data[i] = (uint8_t)input.data[6U + i]
[未セットのデータがある場合]
[全データのセットが完了した場合]
文字列表示
printf("¥n")
[データサイズが正常な場合]
[データサイズが－1の場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
文字列表示
printf("write data > %s¥n", (const char *)&write_data[0])
[データサイズが正常な場合]
[データサイズが－1の場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
データ比較
strncmp((const char *)&input.data[0], "read", 4)
[データが正しくない場合]
[データが正しい場合]
メッセージ出力プロセスに設定
proc = PROC_OUTPUT_MSG
[データ書き込み済み]
[データ書き込みなし]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
文字列表示
printf("¥n")
[データサイズが正常な場合]
[データサイズが-1の場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
文字列表示
printf("read data > ")
[データサイズが正常な場合]
[データサイズが-1の場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
文字列表示
printf("%s", (const char*)&bsp_ram1[0])
[データサイズが正常な場合]
[データサイズが-1の場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
文字列表示
printf("¥n")
[データサイズが正常な場合]
[データサイズが-1の場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
[書き込み実行プロセスの場合]
(PROC_WRITE_EXEC)
データコピー
strncpy((char *)bsp_ram1, (const char *)write_data, BSP_WRITE_DATA_MAX)
書き込みデータクリア
write_data_clear()
メッセージ出力プロセスに設定
proc = PROC_OUTPUT_MSG
データ書き込み済みに設定
write_done = 1
出力エラープロセスに設定
proc = PROC_OUTPUT_ERR
b
d

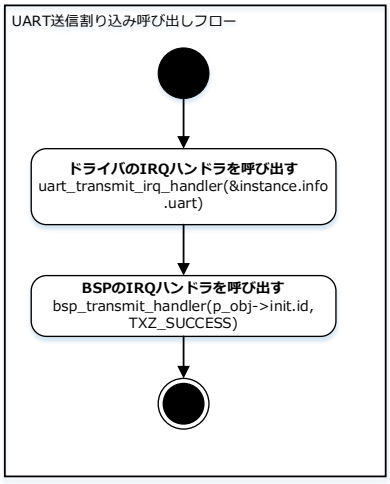

c
[出力エラープロセスの場合]
(PROC_OUTPUT_ERR)
文字列表示
printf("¥n Command Error !! ¥n")
[データサイズが-1の場合]
[データサイズが正常な場合]
メッセージ出力プロセスに設定
proc = PROC_OUTPUT_MSG
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
Application初期化
application_initialize()
[初期化成功]
[初期化失敗]
[パラメータエラープロセスの場合]
(PROC_PARAM_ERROR)
文字列表示
printf("¥n Parameter Error !! ¥n")
[データサイズが-1の場合]
[データサイズが正常な場合]
メッセージ出力プロセスに設定
proc = PROC_OUTPUT_MSG
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
[パリティエラープロセスの場合]
(PROC_PARITY_ERR)
メッセージ出力プロセスに設定
proc = PROC_OUTPUT_MSG
[確認RAMエリアステータス異常なし]
[確認RAMエリアステータス異常あり]
文字列表示
printf("¥n RAM AREA %d Parity Error !! ¥n", i))
[データサイズが-1の場合]
[データサイズが正常な場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
[全RAMエリアステータスを確認した場合]
[確認するRAMエリアステータスがある場合]
[エラープロセスの場合]
(PROC_ERROR)
[デバッグ時でない場合]
[デバッグ時の場合]
ソフト停止
assert_failed(MAIN_NULL,0)
[左記以外の場合]
エラープロセスに設定
proc = PROC_ERROR
d

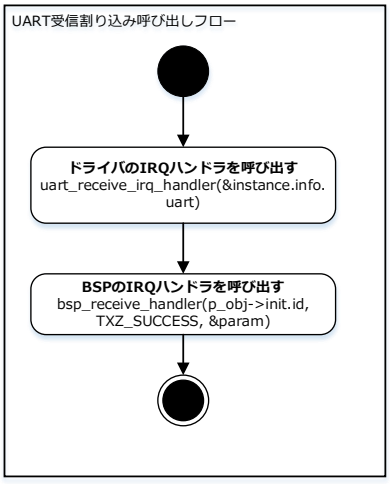
7.2. 割り込み











© 2025
Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation

8. 改訂履歴

Revision	日付	変更項目
1.0	2025-01-20	初版
1.1	2025-10-30	6.3 使用する割り込み M3H 使用割り込み名追記 6.4 コンフィグレーション M3H 関連追記

© 2025
Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation

製品取り扱い上のお願い

株式会社東芝およびその子会社ならびに関係会社を以下「当社」といいます。
本資料に掲載されているハードウエア、ソフトウエアおよびシステムを以下「本製品」といいます。

- 本製品に関する情報等、本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。また、文書による当社の事前の承諾を得て本資料を転載複製する場合でも、記載内容に一切変更を加えたり、削除したりしないでください。
- 当社は品質、信頼性の向上に努めていますが、半導体・ストレージ製品は一般に誤作動または故障する場合があります。本製品をご使用頂く場合は、本製品の誤作動や故障により生命・身体・財産が侵害されることのないように、お客様の責任において、お客様のハードウエア・ソフトウエア・システムに必要な安全設計を行うことをお願いします。なお、設計および使用に際しては、本製品に関する最新の情報（本資料、仕様書、データシート、アプリケーションノート、半導体信頼性ハンドブックなど）および本製品が使用される機器の取扱説明書、操作説明書などをご確認の上、これに従ってください。また、上記資料などに記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を使用する場合は、お客様の製品単独およびシステム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。
- 本製品は、特別に高い品質・信頼性が要求され、またはその故障や誤作動が生命・身体に危害を及ぼす恐れ、膨大な財産損害を引き起こす恐れ、もしくは社会に深刻な影響を及ぼす恐れのある機器（以下“特定用途”という）に使用されることは意図されていませんし、保証もされていません。特定用途には原子力関連機器、航空・宇宙機器、医療機器（ヘルスケア除く）、車載・輸送機器、列車・船舶機器、交通信号機器、燃焼・爆発制御機器、各種安全関連機器、昇降機器、発電関連機器などが含まれますが、本資料に個別に記載する用途は除きます。特定用途に使用された場合には、当社は一切の責任を負いません。なお、詳細は当社営業窓口まで、または当社 Web サイトのお問い合わせフォームからお問い合わせください。
- 本製品を、国内外の法令、規則及び命令により、製造、使用、販売を禁止されている製品に使用することはできません。
- 本資料に掲載してある技術情報は、製品の代表的動作・応用を説明するためのもので、その使用に際して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- 別途、書面による契約またはお客様と当社が合意した仕様書がない限り、当社は、本製品および技術情報に関して、明示的にも黙示的にも一切の保証（機能動作の保証、商品性の保証、特定目的への合致の保証、情報の正確性の保証、第三者の権利の非侵害保証を含むがこれに限らない。）をしておりません。
- 本製品、または本資料に掲載されている技術情報を、大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍事用途の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」、「米国輸出管理規則」等、適用ある輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続を行ってください。
- 本製品の RoHS 適合性など、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問い合わせください。本製品のご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用ある環境関連法令を十分調査の上、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いかねます。

© 2025
Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation